

令和元年度 第4回 栗東市総合計画審議会 議事要旨

日時：令和元年11月29日（金） 9時30分～

場所：栗東市危機管理センター4階会議室

出席者：新川委員（会長）、清水（憲）委員（会長代理）、吉川委員、山元委員、平田委員、上田委員、清水（久）委員、内記委員、武村委員、谷口（浩）委員、砂脇委員、渡邊委員、鶴飼委員、田中委員、竹村委員、谷口（彰）委員、今井委員

次第：1 開会

2 市民憲章唱和

3 挨拶

4 資料確認

5 審議事項

（1）第六次栗東市総合計画並びに第五次栗東市国土利用計画の策定スケジュールの変更について

（2）第六次栗東市総合計画（案）について

（3）第五次栗東市国土利用計画（案）について

（4）今後のスケジュールについて

6 閉会

1 開会

2 市民憲章唱和

3 挨拶

- ・新川会長挨拶
- ・野村昌弘市長挨拶

4 資料確認

5 審議事項

（1）第六次栗東市総合計画並びに第五次栗東市国土利用計画の策定スケジュールの変更について

－資料1に基づき事務局より説明－

会長：審議を慎重に進めるため、全体のスケジュールを少し先送りにするという提案である。全体の枠組みに変更はないが、当初予定の12月議会から、3月議会への提案とし、それに合わせて全体の工程を後ろにずらすという内容である。ご質問、ご意見はあるか。

－意見なし－

会長：計画の策定に差し障りがある内容ではないと思う。提案の内容で進めてほしい。

（２）第六次栗東市総合計画（案）について

－「序論・基本構想」（案）について、資料２－１に基づき事務局より説明－

会長：序論、基本構想について、この間の議論を踏まえて修正があった。特に 22～23 頁はかなり整理してもらった。ご意見、ご質問はあるか。

－意見なし－

会長：もし後ほどでも、お気づきの点があれば、ご意見を願います。

－「前期基本計画」（案）について、資料２－１に基づき事務局より説明－

会長：それでは、政策 1～5 について、それぞれ区切って意見交換を行いたい。

（政策 1 経済の安心を生み出す）

委員：30 頁「5－(1)経済の安心を生み出す」の 5 項目「緑豊かな自然や街道文化を推進します。」については、「文化を推進する」という表現はおかしいので、修正を。

事務局：「…文化を活かしたまちづくりを推進します」と修正したい。

会長：事務局で文章のつながりを考え、適正に修正してほしい。

（政策 2 教育・子育ての安心を育む）

－意見なし－

（政策 3 福祉・健康の安心を築く）

－意見なし－

（政策 4 暮らしの安心を支える）

委員：85 頁「1－(3)コミュニティ（地域活動）人材の育成」について、コミュニティでボランティアを育成することだが、主語はコミュニティセンターであって、ボランティアセンターは「様々な団体」のひとつではないか。ボランティアセンターがコミュニティセンターとともに人材を育成するというのは大変ではないか。

事務局：ボランティアセンターは時々の課題に柔軟に対応いただいている。ご指摘を踏まえて修正を検討する。

（政策 5 行政の安心を営む）

会長：「馬のまち」については各部会でも様々な意見があったが、それらの意見を踏まえて、行政として位置づけをしている。

委員：政策 5 への位置づけは違和感がある。シティセールスのひとつの手段ということだが、「馬のまち」をどうしていきたいのか、もう少し説明してほしい。

事務局：健康運動公園の構想があり、JRAの引退馬を活用したふれあいをキーワードとしながら実現させていきたい。公園の計画がまだ決まっていないこともあり、記載する内容は限られるが、「馬のまちビジョン」で検討し、具体化を図りたい。

委員：計画自体はよいことだと思う。ただ課題に「対外的な情報発信」とあり、事業の役割はPRであり、運動公園はその発信拠点、「馬のまちのアピール拠点」という位置づけになっており、馬のまちとしては既に確立していることが前提のように感じる。しかし現在はまだコンテンツづくりが大切ではないか。また、事業者の役割として「市をPR」となっているが、商品を開発して儲けるのが事業者の役割であり、対外的なPRが役割ではない。PRでなく、プランの具体化を図るという書き方にした方がよいのではないか。

事務局：19頁の基本理念に『「馬のまち」としての魅力を発展させる』と位置づけている。これはつまり、馬のまちというまちづくりを介して本市の魅力を発信していきたいということである。どのような発信ができるのか、検討したい。文章については、ご意見を踏まえて検討したい。

委員：部会でも意見があったが、やはり第三者的にみると位置づけに違和感がある。事務局の説明では馬のまちというイメージ戦略の中で、行政としての役割を受け持つということか。それなら、馬というキャラクター展開について、もう少し行政の主導的な動きが必要だろう。キャラクターといっても馬の着ぐるみをつくるということではなく、イメージ戦略としての取り組みである。その取り組みが安心できる行政につながることを表現する必要がある。栗東に住めば、生活の中に馬がイメージされ、訪れる人が馬に出会える環境をつくるということを大きな方針にすれば、このポジションでも納まるのではないか。

会長：対外的なブランディングという、市のイメージ戦略における大きな意味がある。これを行政の基本に据え、周囲に波及させていくという方針や役割を明確にすべきとの意見である。事務局で再度、検討してほしい。

委員：めざす姿の冒頭（主語）は「市民や訪れる人が…」とした方が外向けのアピールという位置づけもはっきりするのではないか。

会長：ご指摘の点も参考にしてほしい。

会長代理：「施策5 馬のまち」は行政がすべきことか。行政が誘導するという事なら、基本事業も民間のやることを後押しするという内容に変わってくるのではないか。また現在、市内外の意識のギャップが課題としているが、市民の認識も弱い。教育効果を求めるといったことより、そうしたことを書く方が適切ではないか。各部会の指摘もそうした認識から来ていると思う。

会長：ここに置くにふさわしい施策にしてほしい。その方法については各委員から提案されている。まず栗東市のまちづくりの大きな手がかりとして進めること、その上で内外にそのイメージを定着させ、それを補う民間の取り組みを支援するという構成について工夫してほしい。ここにふさわしい位置づけと内容の精査をお願いする。

：他になければ、ここまでいただいたご意見、ご提案を踏まえて内容を修正し、議会への報告やパブリックコメントを進めてほしい。

（3）第五次栗東市国土利用計画（案）について

－資料3に基づき事務局より説明－

会長：事務局の第五次栗東市国土利用計画（案）の説明を踏まえ、ご意見、ご質問はあるか。

委員：14頁「4－(1)災害への対応」について、近年、雨の降り方が以前とは異なるように感じており、野洲川の氾濫を想定しておく必要があるのではないか。近畿地方整備局では、野洲川西側の氾濫時の想定図を示している。今後は100年に一度ではなく、200年に一度の事態が4～5年に一度は起こり得るという印象がある。どのようにみているのか。

事務局：200年に一度、あるいは1000年に一度を前提として検討している。今後、国等と協議しながら、必要な部分を柔軟に修正していきたい。

委員：防災マップでも河川の氾濫は想定されていない。提示の三河川＋野洲川の氾濫を前提とした想定が必要である。検討してほしい。

事務局：今後、国土強靱化地域計画を策定する中で、野洲川を含めた内容の追記を研究させてほしい。

委員：了解した。

委員：意見ではないが、協議を通じて感じたことをコメントしておきたい。

：交通利便性について、国土利用計画にどう反映されるか。また、北部地域における産業立地が市の方針として固まる中、国土利用計画としてどのように捉えるか。有形無形のポテンシャルが高いまちとして、特に物理的にこれらをどう活用するかが問われる。総合計画では、文化や歴史など無形の地域魅力について示しているが、有形無形の数多くの資産、それらのつながりが唯一無二の栗東としての魅力になっていく。栗東市はこれからの可能性を感じさせるまちである。

会長：ご指摘が栗東市の国土利用における基本的な考え方だと思う。理念等については総合計画と整合がとれたものになっている。

（４）今後のスケジュールについて

－資料３に基づき事務局より説明－

事務局：総合計画、国土利用計画ともに12月議会で中間報告を行い、そこでの意見を踏まえて12月から1月にかけてパブリックコメントを実施する。その後再度、本審議会を開催して最後のとりまとめを行い、3月議会で議決を得たいと考えている。

：本日のご意見、議会からの意見の反映については、会長、副会長（代理）にご一任いただきたい。

会長：パブリックコメントについては、本日の議論を踏まえた修正案をベースとして実施したいということである。恐縮だが、修正について会長、副会長（代理）、各部長にとりまとめを一任いただけるか。

－各委員了承－

会長：それでは今後のスケジュールについては、事務局提案の流れでお願いします。パブリックコメントの結果を踏まえ、1月末頃に再度、ご参集いただき、最終的な答申案をご確認いただく。また、本日以降に何かご意見があれば、事務局まで伝えてもらえば修正の参考にさせていただきます。

：第六次栗東市総合計画並びに第五次栗東市国土利用計画の審議は以上で終了する。熱心な議論に感謝したい。

副市長：長期間にわたり、多様な見地からご意見、アドバイスをいただき、ようやくここまでやって来た。総合計画は本市における最上位計画であり、最後のとりまとめに向け、更なるご尽力をお願いするとともに、皆さまの益々のご活躍を祈念する。

6 閉会

以 上

令和元年度 第4回 栗東市総合計画審議会 議事要旨

日 時：令和元年11月29日（金） 11時30分～

場 所：栗東市危機管理センター4階会議室

出席者：新川委員（会長）、清水（憲）委員（会長代理）、吉川委員、山元委員、
平田委員、上田委員、清水（久）委員、内記委員、武村委員

次 第

（5）第五次栗東市総合計画後期基本計画進捗状況について
閉会

5 審議事項

（1）（5）第五次栗東市総合計画後期基本計画進捗状況について

－資料4、5に基づき事務局より説明－

会長：本年度の報告を受けた。概ね3（当初に設定した目標を概ね計画どおりに達成）の評価だが、一部で2（当初設定した目標を未達成）の評価もみられる。なお、これは行政各部の自己評価であり、当審議会としての意見をいただきたい。

：トップセールスについて補足説明があるか。

事務局：今年度、企業動向等について調整を行っており、まだその活用までに至っていない。若干時間を要しているが、しっかり実現を図っていききたい。

：J R栗東駅周辺のバリアフリー化については今年度、実施予定だが、これも若干の時間を要している。

－その他、意見なし－

会長：それでは上半期分の報告に対し、部・課の評価で概ね計画が適正に進捗していると評価し、一部、下半期に期待される部分については、しっかり進めるようお願いする。住宅補助など、実施件数等で一部、目標が達成できていない部分については、市民ニーズを踏まえ、業務体制の見直しを含めて市民への周知を図ってほしい。

：他の施策・計画とも関連するが、市民ニーズに対応して進めるべきところについては、広報PRが不足していると判断できる部分については、周知徹底をお願いする。また、着手できていない事業・取り組みについては、将来、着手・実行できる見通しが立つようになり、しっかりと対応をお願いする。

委員：地域の素朴な感想だが、例えば2頁の人権における地域別懇談会は当地域でも実施しているが、我々も、また参加する市民も義務感で仕方なくやっており、これでいいのかとも思う。内容も同和対策について少し話す程度だが、人権問題はそんなもので納まるものではない。どうすればいいのかはわからないが、もっと人権問題全体について必要な幅広く、興味を持てる内容になるよう、考えてほしい。

事務局：人権に関する地域別懇談会は全地域で実施されており、今年度も100%の達成に向け努力しているところである。参加者の固定化等の課題があり、行きたい、参加したいと感

じてもらえるよう、リーダー研修やSNSの活用などを進めており、時代に合った研修会等で一人でも多くの参加をいただけるよう、今後も努力したい。

会長：人権は世界的な課題でもある。地域内では見えにくくなる一方、例えばインターネット上では頻出している。依然として性差など様々な部分で人権問題は生じており、基本的な課題が多様化していると言える。こうした時代の変化、そして地域の変化を踏まえて、本当の意味で人権問題の解決につながる取り組みを考えてほしい。

：それでは、本日の議論を下半期の取り組みに反映してもらい、計画の実行に努めるとともに、後期基本計画も最終段階を迎えていることから、新たな総合計画に向けて円滑な移行が進むよう一体的に取り組んでほしい。

：以上をもって本審議会の意見としたい。

教育長：熱心なご審議に感謝する。ご指摘については当然のことであり、評価が2の部分については、なぜそうなっているかを真剣に議論し、また3としている部分も本当に目標に対して目標を達したのか、十分に検討し、さらなる進行に務めたい。将来像の実現に向け、各委員の一層のご指導をお願いするとともに、ご自愛いただき、益々のご活躍を期待する。

事務局：長時間の議論に感謝する。12月2日に再度の会議をお願いしているので、よろしく願いしたい。本日の議論をこれで終了する。

以 上